

2021年3月期（第24期）

第1四半期決算概要

（補足説明資料）

2020年8月7日

株式会社バイ・テクノロジー

将来見通し等について

▶ 将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。

従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

▶ 為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

▶ 数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

| 決算概要

新型コロナウイルス感染拡大の影響

事業

- ▶ 前年度4Q(1~3月期)に販売が落ち込むも今1Q(4~6月期)に回復、前年度Q4から今年度売上計上に変更したほぼ全ての案件を上期中に売上げ予定。
- ▶ 製品納品先、特に海外においては安全確保の上、各国政府や顧客の指示の下据付作業実施。
- ▶ 中国においては、徐々に生産活動が再開される中、限定的ながらも日本からの出張も可能となり、作業速度は改善。
- ▶ 一方、コロナ禍以前より、海外での装置据付等の作業を現地スタッフへ移管する取り組みを実施。来年より、現地スタッフによりほぼ全ての装置据付作業が可能となる見込み。

事業運営

- ▶ 従業員とその家族、取引先の他、関係の皆様健康と安全を第一に在宅勤務の実施、出張制限など感染予防策を各地の拠点ごとに徹底。
- ▶ 横浜本社勤務者に対しては3月末日より5月25日まで、全社員を対象とした在宅勤務を実施、期間中約85%の社員が在宅勤務で業務を遂行。5月26日~6月30日まで出社率50%を目安とする勤務体制で業務を遂行。
- ▶ 7月1日より在宅勤務を業務遂行の軸とした新しい勤務体制に移行。新勤務体制の下、社員の安全確保、ワークライフバランスおよび業務効率の改善、オフィスコスト削減を狙う。

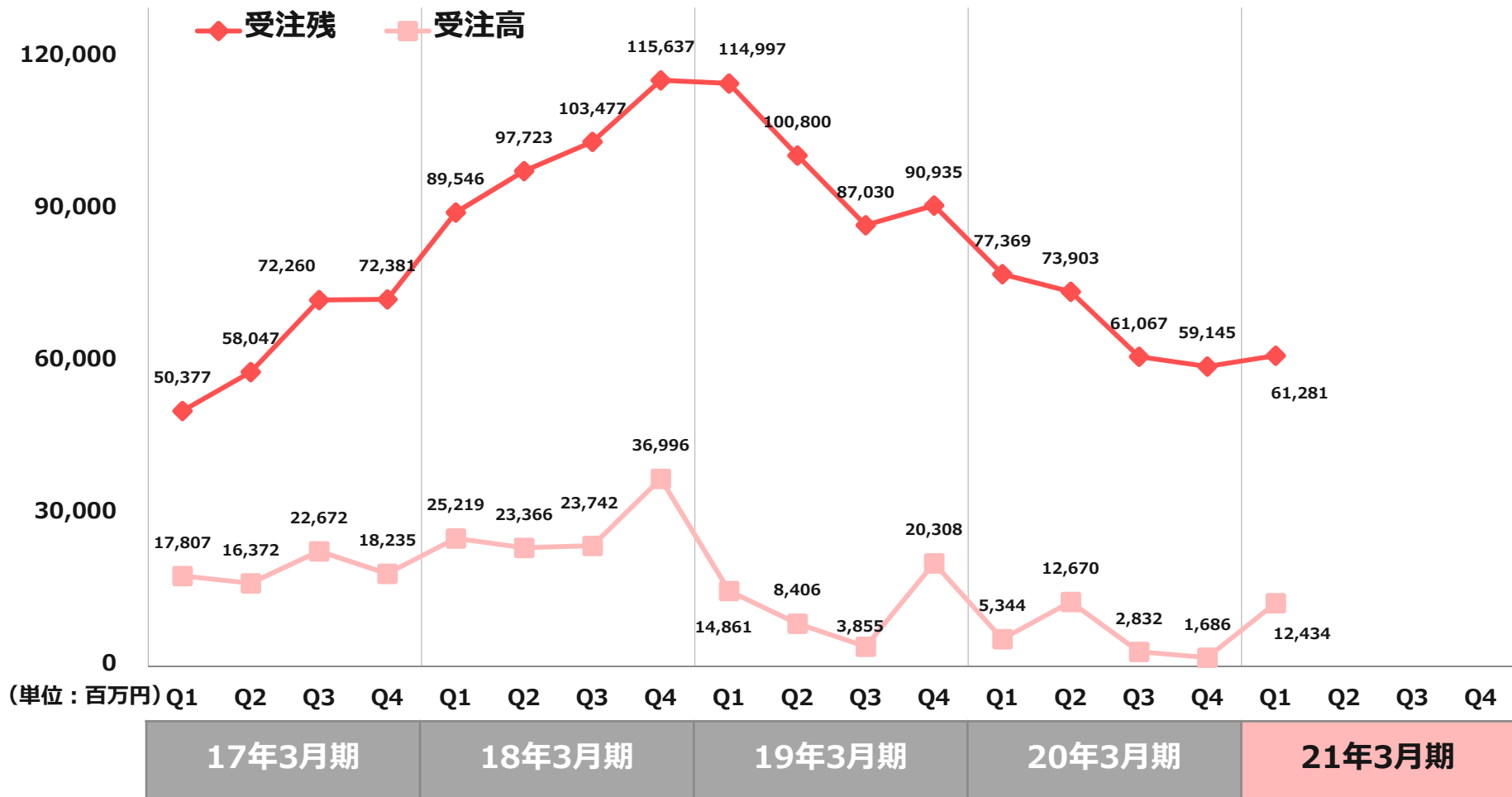
業績ハイライト

- ▶ 前年度4Q(1~3月期)に36億円まで販売が落ち込むも、1Q(4~6月期)に急回復
- ▶ 4月に大口受注を発表、受注回復と商談の再開を確認
- ▶ 連結Q1収益は、製造装置および検査装置事業の利益率改善が確認されたものの、全体としては、新型コロナによる販売遅延の影響等を受け、前年比で減収減益

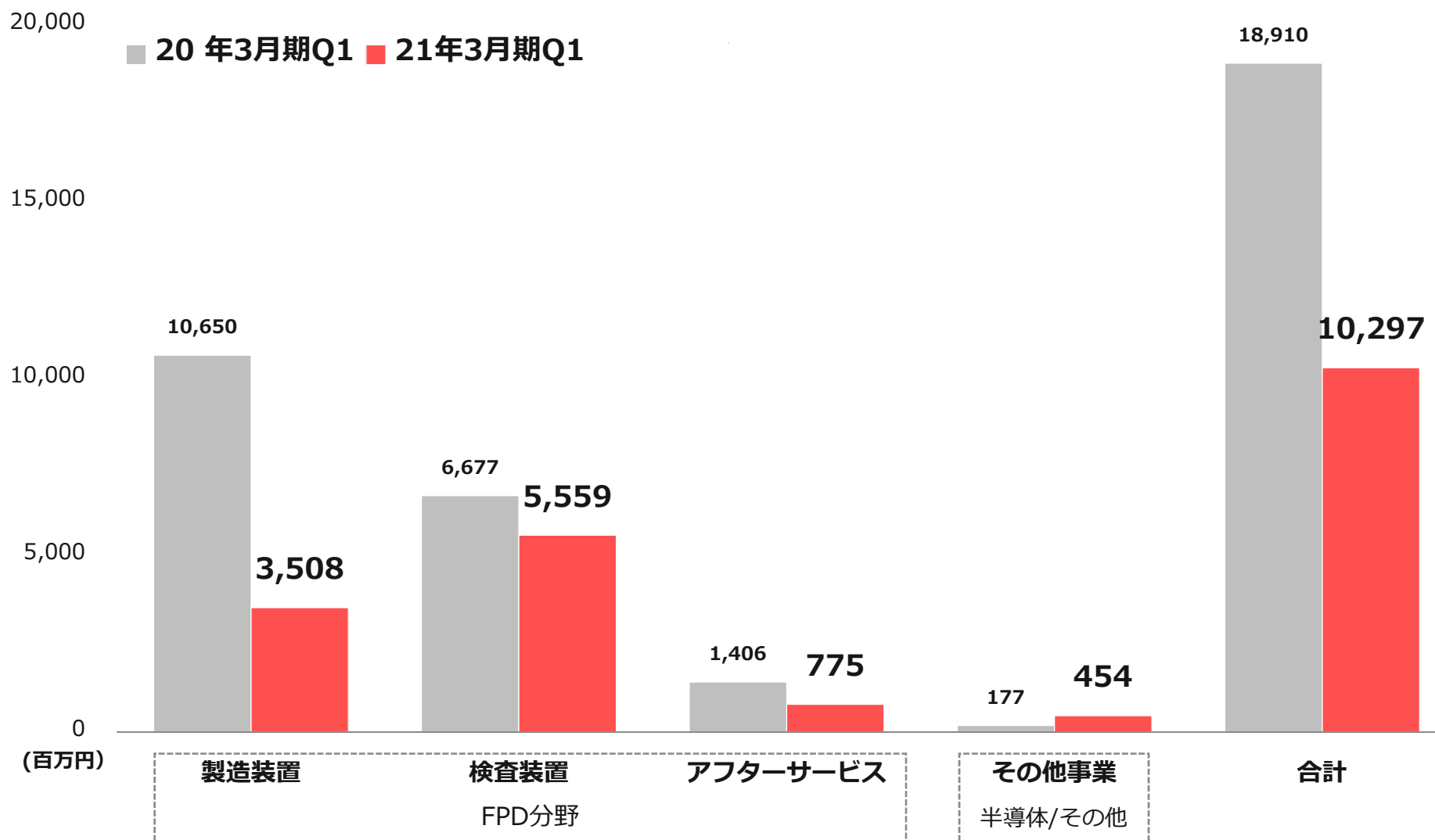
	20年3月期Q1累計		21年3月期Q1累計		増減率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
売上高	18,910	—	10,297	—	▲45.5%
売上総利益	6,502	34.4%	3,173	30.8%	▲51.2%
営業利益	3,721	19.7%	1,192	11.6%	▲68.0%
経常利益	3,676	19.4%	1,142	11.1%	▲68.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,283	12.1%	644	6.3%	▲71.8%
受注金額	5,344	—	12,434	—	132.7%
受注残	77,369	—	61,281	—	▲20.8%

連結受注残・四半期連結受注高の推移

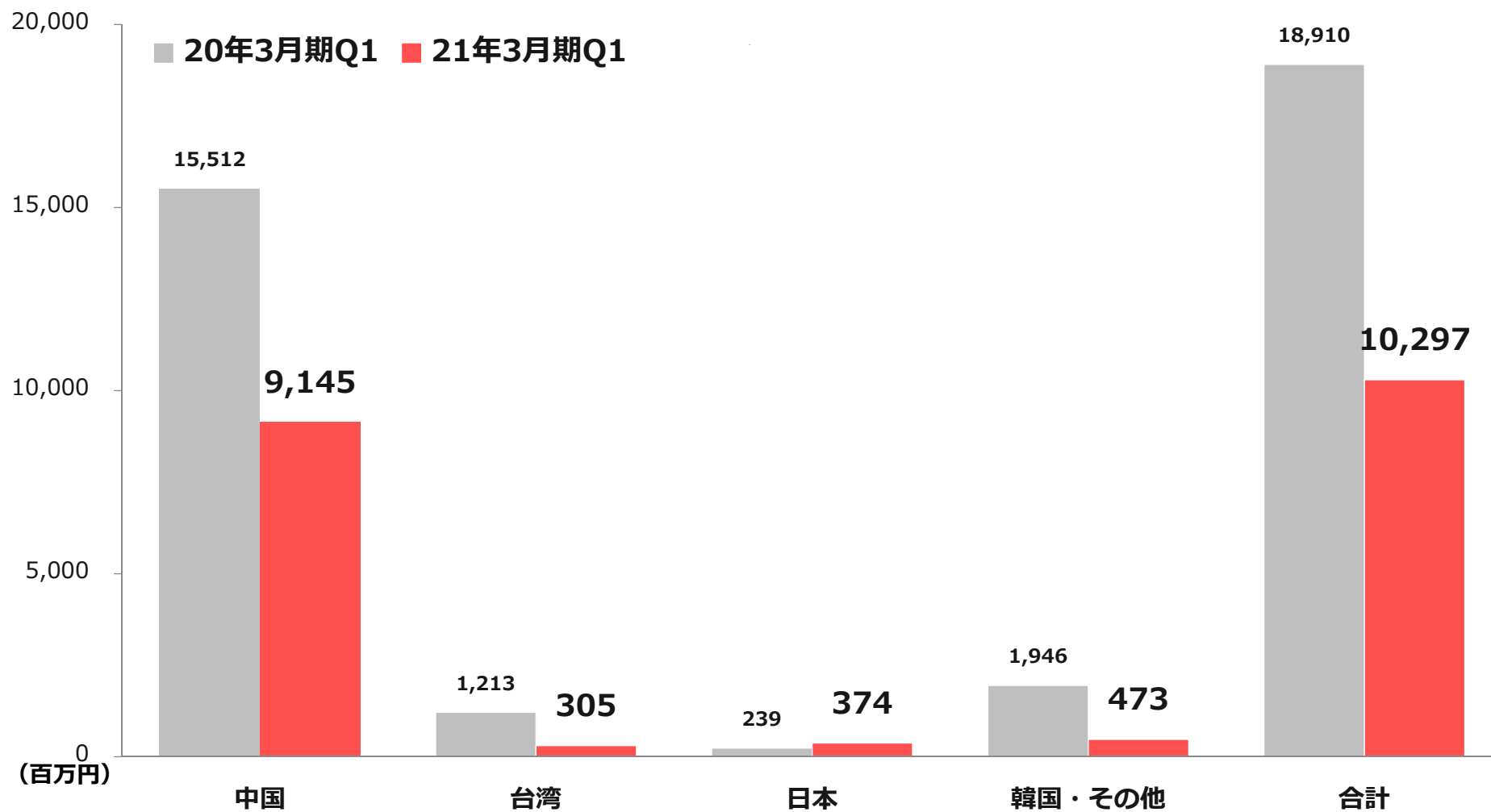
- ▶ 大口受注(受注金額100億円/4月23日開示)の計上等の結果、Q1受注は124億円まで回復
- ▶ 投資が著しく遅延している海外案件(約33億円)の受注取消を実行
- ▶ 受注取消による影響は、期初の事業計画に織り込み済みの為、業績予想の変更無し



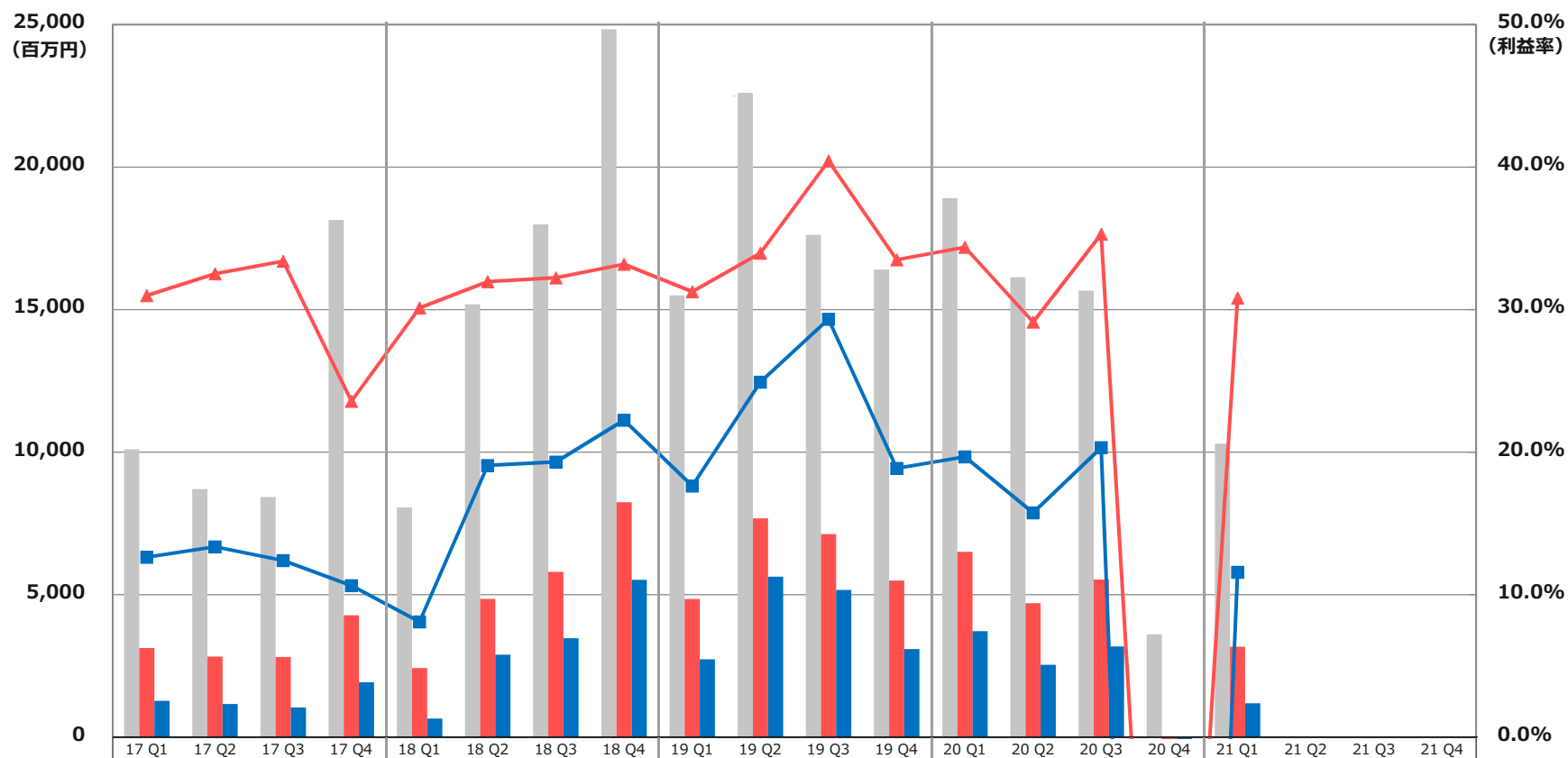
装置別連結売上高



地域別連結売上高



四半期毎連結売上高・利益の推移

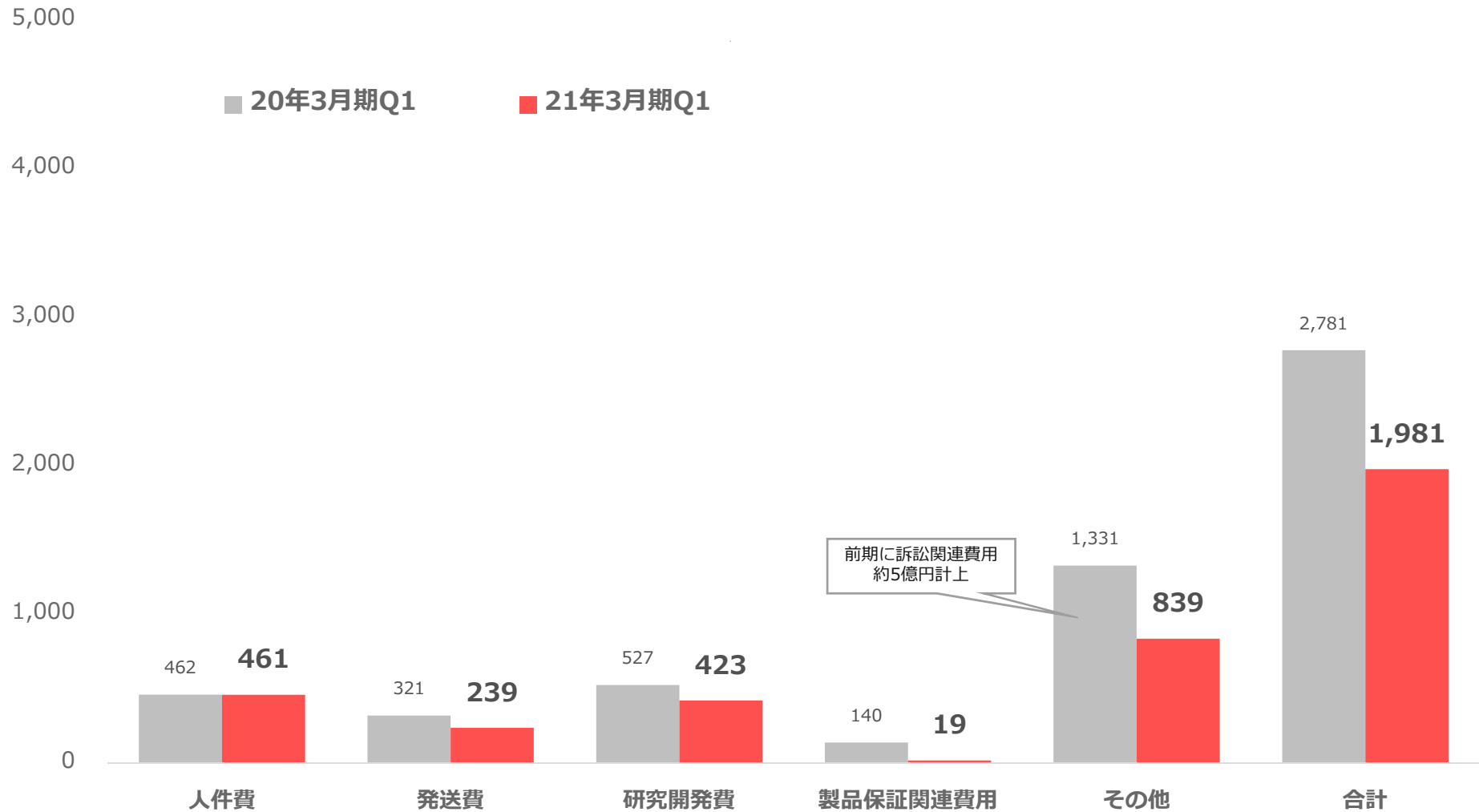


	17 Q1	17 Q2	17 Q3	17 Q4	18 Q1	18 Q2	18 Q3	18 Q4	19 Q1	19 Q2	19 Q3	19 Q4	20 Q1	20 Q2	20 Q3	20 Q4	21 Q1	21 Q2	21 Q3	21 Q4	
売上高(百万円)	10,101	8,703	8,426	18,146	8,055	15,189	17,988	24,835	15,501	22,603	17,624	16,404	18,910	16,136	15,669	3,607	10,297				
売上総利益(百万円)	3,130	2,830	2,814	4,278	2,426	4,855	5,798	8,242	4,846	7,677	7,125	5,496	6,502	4,700	5,532	(1,612)	3,173				
営業利益(百万円)	1,276	1,163	1,045	1,930	652	2,896	3,473	5,524	2,733	5,632	5,169	3,094	3,721	2,541	3,185	(3,740)	1,192				
売上総利益率	31.0%	32.5%	33.4%	23.6%	30.1%	32.0%	32.2%	33.2%	31.3%	34.0%	40.4%	33.5%	34.4%	29.1%	35.3%	赤転	30.8%				
営業利益率	12.6%	13.4%	12.4%	10.6%	8.1%	19.1%	19.3%	22.2%	17.6%	24.9%	29.3%	18.9%	19.7%	15.7%	20.3%	赤転	11.6%				

販売費及び一般管理費

▶ 販管費は前年比28.8%減少

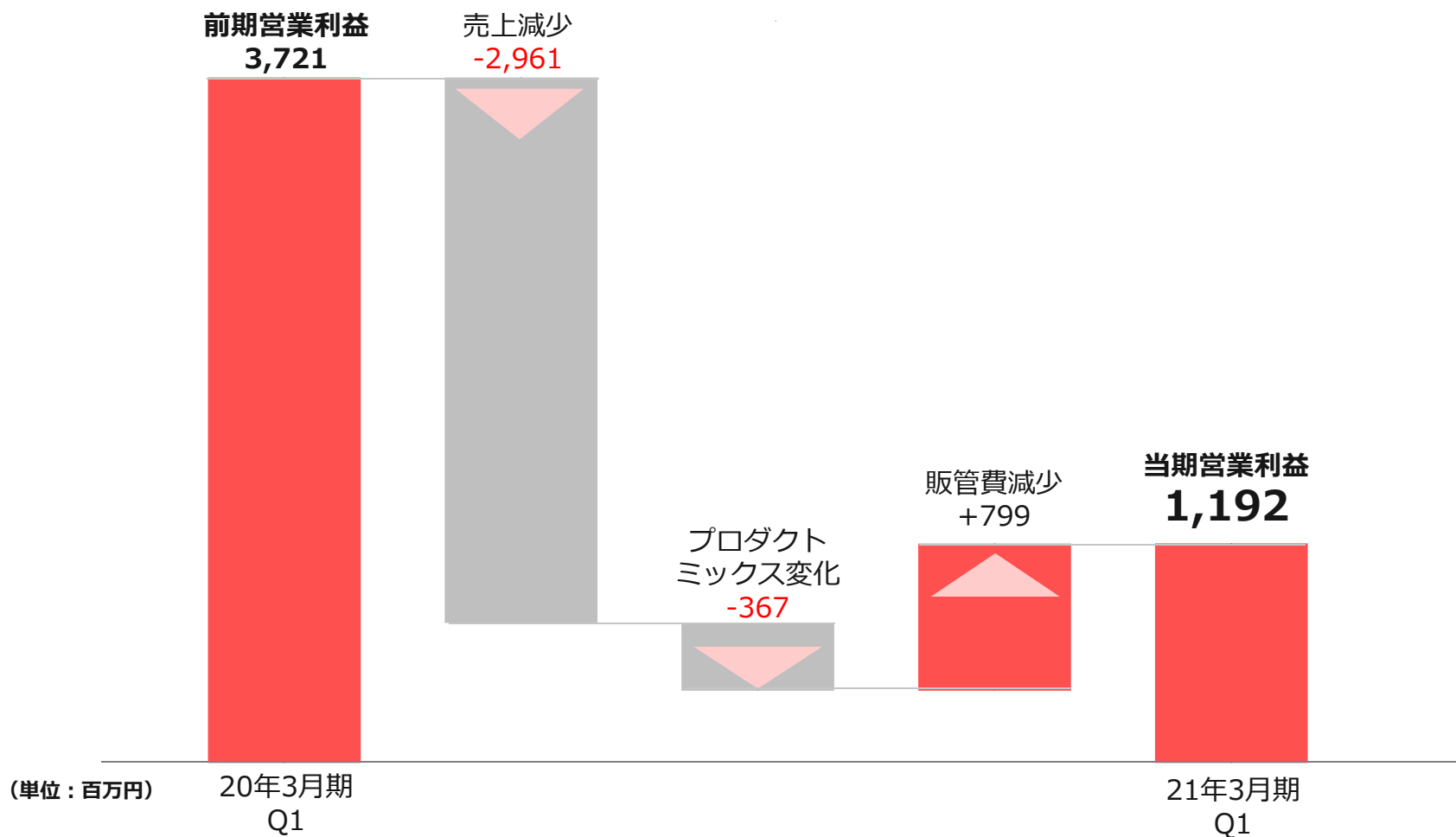
- ▶ 売上減に伴う発送費などの減少、その他項目の訴訟関連費用の減少が主な要因



(単位：百万円)

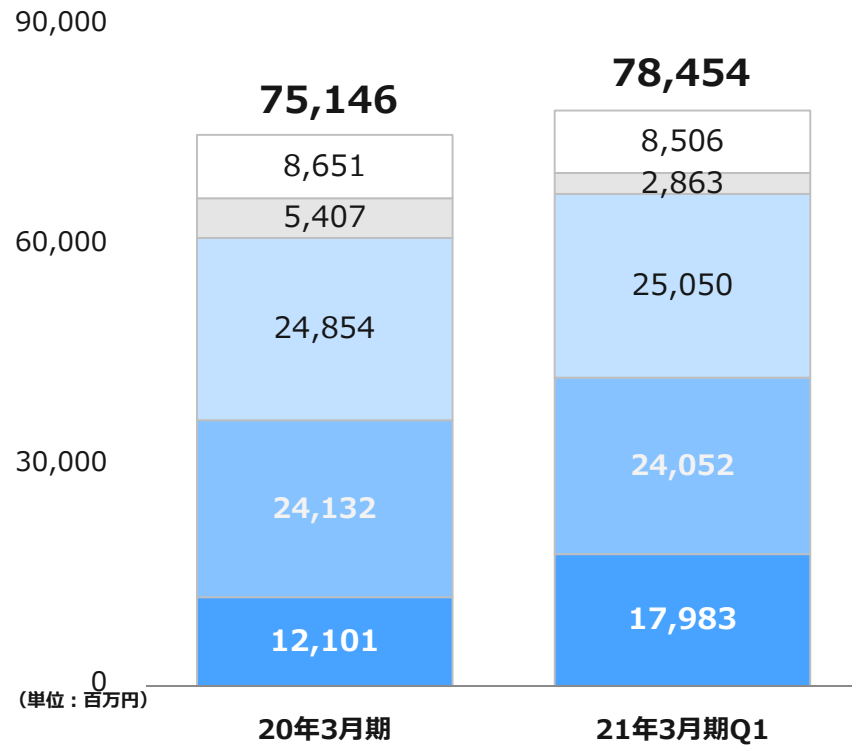
連結営業利益の差異分析

- ▶ 主に新型コロナ影響による売上の減少により、営業利益は68.0%減少



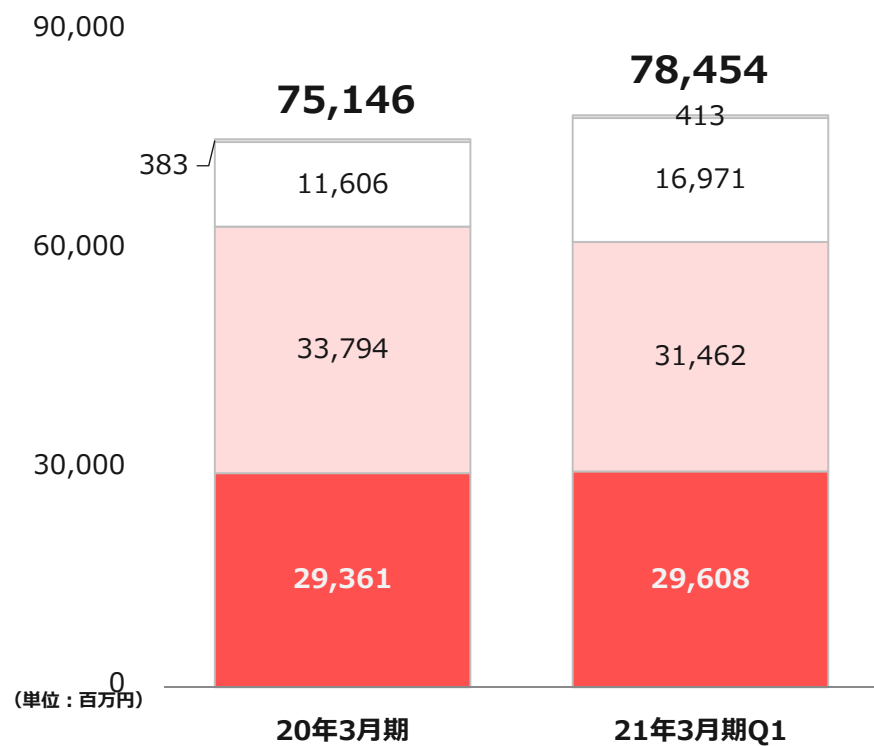
連結貸借対照表の推移

総資産



- 現金及び預金
- 受取手形及び売掛金
- 棚卸資産
- その他流動資産
- 固定資産

負債・純資産



- 純資産
- 借入金 (短期・長期)
- その他流動負債
- その他固定負債

| 業績見通し

2021年3月期の業績および配当予想

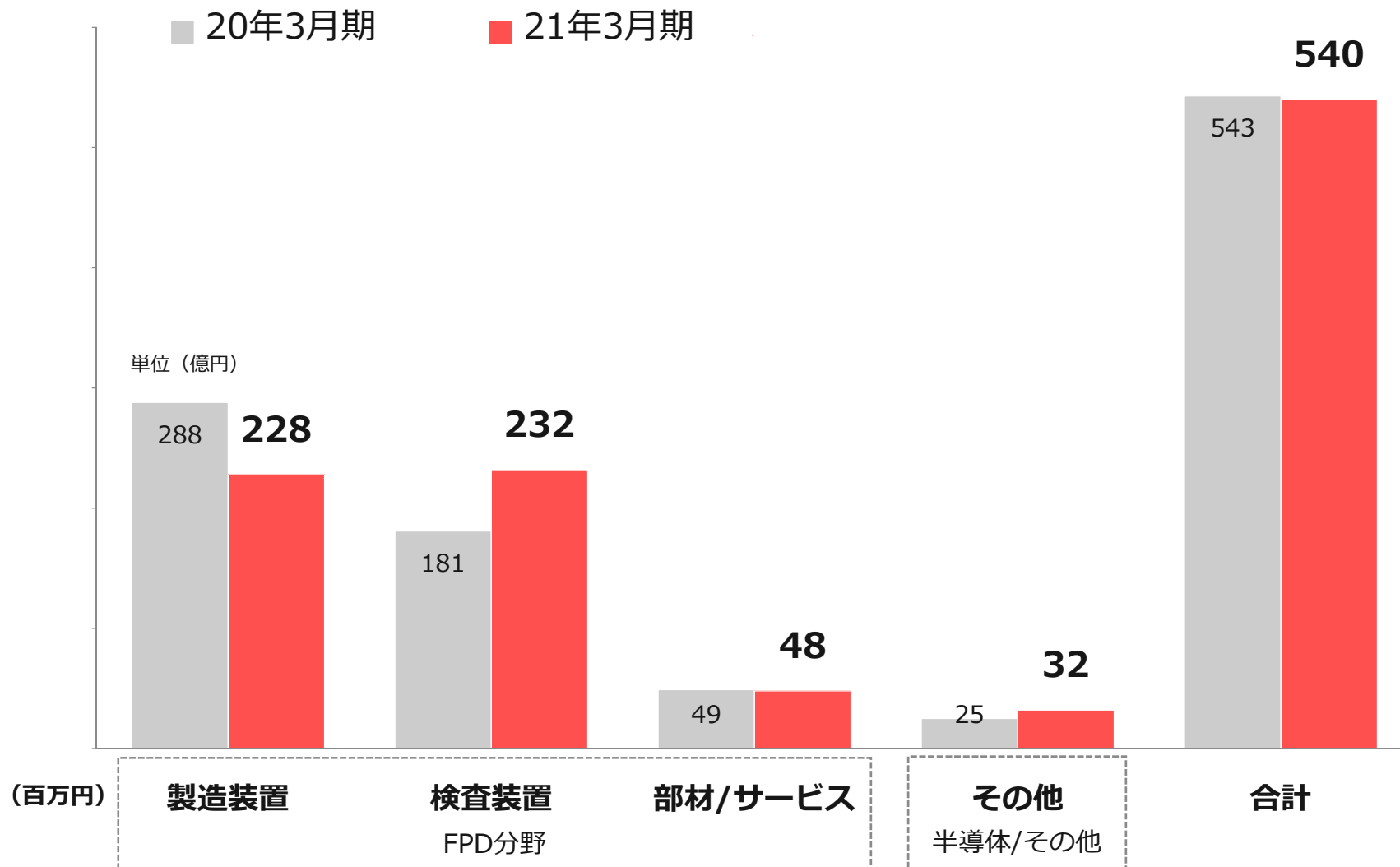
▶ 5月12日開示の業績予想から変更無

業績予想	20年3月期(実績)		21年3月期(予想)		対前期増減率
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	
売上高	54,322	—	54,000	—	-0.6%
営業利益	5,707	10.5%	6,000	11.1%	5.1%
経常利益	6,209	11.4%	5,800	10.7%	-6.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,277	6.0%	3,000	5.6%	-8.5%
EPS	338.99円		310.25円		—

配当予想	20年3月期(実績)	21年3月期(予想)
中間	40円(実績)	60円
期末	80円(実績)	60円

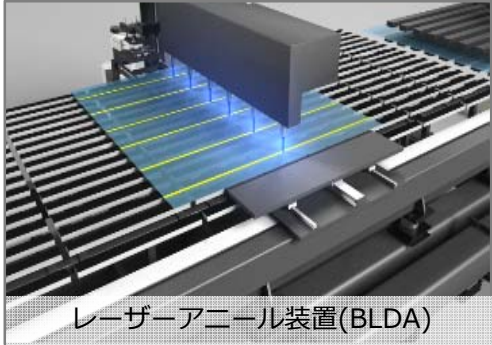
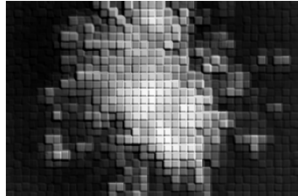
(参考) 売上予想の装置別内訳

▶ 5月12日開示の業績予想から変更無


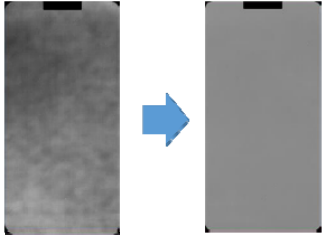




| トピックス

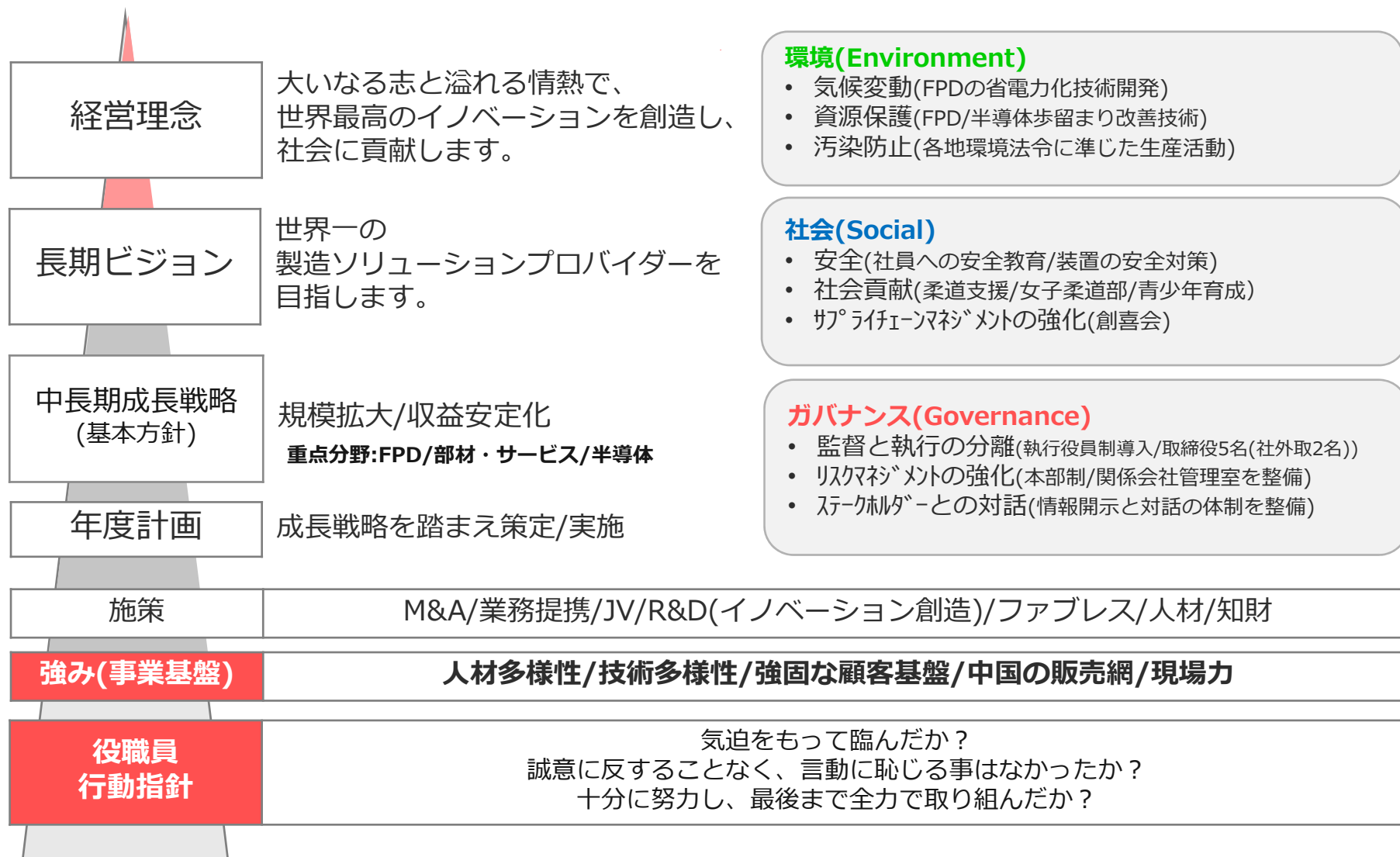
進化するローカルディミング(局所輝度制御技術)と当社製品

新旧ローカルディミング	元の映像に対する新旧ローカルディミングの違い		関連する当社製品
	バックライト点灯イメージ	元の映像	
開発中の進化型 画面を5000~10000分割して明暗を制御 miniLEDを5000~10000個程度使用	実際の映像に近い輝度制御 		大型ガラス基板用露光装置 欠陥修正装置/欠陥検査装置 レーザーアニール装置  レーザーアニール装置(BLDA)
従来型 画面を500~1000分割して明暗を制御 LEDを500~1000個程度使用	輝度の制御は限定的 		

進化するスマートフォンの画面とサルベージサービス

画面の進化と共に上がる製造難度	高まるDemura技術への期待	昆山本社工場が4月より稼働
 Foldable In Display Camera Drop Notch	 Demuraによるムラ欠陥の除去	建屋外観  本格稼働間近 クリーンルーム 

経営理念とビジョンに根差した事業活動を通じてESG活動を推進





V-TECHNOLOGY